

事務事業一覧表

施策コード	事業名称	部局名	所属名	シート区分	ページ
33111	安全歩行空間整備事業	都市整備部	道路河川整備課	シートB	2
33111	安全歩行空間整備事業(社会資本整備総合交付金)	都市整備部	道路河川整備課	シートB	4
33211	街路・幹線道路整備事業	都市整備部	道路河川整備課	シートB	6
51111	道路橋梁災害復旧事業(補助)	都市整備部	道路河川整備課	シートB	8
51112	生活道路整備事業	都市整備部	道路河川整備課	シートB	10
51112	生活道路整備事業(社会資本整備総合交付金)	都市整備部	道路河川整備課	シートB	12
21131	河川水路事務事業(一般会計)	都市整備部	道路河川整備課	シートA	14
21131	治水等促進団体負担金事業	都市整備部	道路河川整備課	シートB	15
21131	準用河川改修事業	都市整備部	道路河川整備課	シートB	17
21133	がけ崩れ防災対策事業	都市整備部	道路河川整備課	シートB	19

令和3年度 松山市 事務事業シート <シートB>

評価実施年度	令和3年度	評価対象年度	令和2年度
--------	-------	--------	-------

令和3年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	幹線道路担当	連絡先	948-6570				
	部等長名	白石 浩人	課等長名	大政 貴史	リーダー名	副主幹	河上 康志	担当者名	主査	白石 剛史	技師	瀧口 将史
令和2年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路建設課	担当グループ名	交通安全施設担当	連絡先	948-6476				
	部等長名	横本 勝己	課等長名	井手 英治	リーダー名	副主幹	寺岡 和紀	担当者名	主査	白石 剛史	技師	本山 丈雄

1. 事業概要【Plan】 ※令和2年度の内容

事務事業名(施策コード)	33111	安全歩行空間整備事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	1:直営
基本目標	地域の魅力・活力がふれるまち【産業・交流】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	広域拠点となる交通基盤を整備する			重点プロジェクト	-	
施策	良好な交通環境の整備			主な取り組み	-	
主な取り組み	身近な交通環境の充実		市長公約	-		
取り組みの柱	歩いて暮らせるまちづくりの推進			-		
総合戦略	基本目標	-				
	政策	-				
	施策	-				
総合計画の実施計画掲載有無(R2)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R2)	2:無し			
根拠法令,条例,個別計画等	道路法, 道路構造令					

事業の目的(どのような状態にするか)	歩道整備や交差点改良により、交通安全を確保する。						
背景(どのような経緯で開始したか)	交通事故発生防止を目的に、昭和43年に国で創設された交通反則通告制度に基づき納入される反則金収入を原資にした「交通安全対策特別交付金」を活用し、道路交通安全施設の設定及び管理を行っている。						
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	事業対象路線に対し、主に以下3点を実施 1. 測量設計及び土地調査業務 2. 用地買収・支障物件の移転補償 3. 歩道整備工事・交差点改良工事						
受益者負担の状況	負担の有無	2:無し	「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由	特定の利益に繋がるものではなく、周辺地域の振興を図るものと考えており、負担はない。			
始期・終期(年度)	平成	24	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	土木費	項	道路橋梁費	目	交通安全施設等整備事業費	R2	予算措置時期	当初	繰越
									R2年度	R3年度		
現計予算額(A) (単位:千円)				95,123				90,858				91,187
決算額(B) (単位:千円)				50,969				48,276				
内訳 (単位:千円) ※R元→R2 決算内訳, R3→予算内訳	国支出金			0				0				0
	県支出金			0				0				0
	市債			0				0				0
	その他			0				0				0
一般財源			50,969				48,276				91,187	
主な経費(単位:千円) ※R2→決算,R3→予算				委託料:5,306千円 工事請負費:32,694千円 補償補填及び賠償金:3,859千円				委託料:22,107千円 工事請負費:61,600千円 補償補填及び賠償金:2,500千円				
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等				予算額のうち40,948千円は、前年度繰り越し分				予算額のうち41,277千円は、前年度からの繰り越し分				
予算執行残額 (単位:千円)				(A)-(B)	44,154			42,582				

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R2年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	久枝150号線、味生42・43号線、石井412号線、桑原57・58号線、余土4号線、中の川線、余土15・23号線、浮穴26・28号線の交差点改良等工事					
主な取り組み内容の達成度	↑	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	年度内完成ができなかった路線もあるが、用地、補償契約や工事は計画的に進んでいる。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	本事業の実施により、交通安全対策が進むため。			
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R2年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	特になし。					
R3年度の目標	各路線について、用地買収、補償契約や工事発注を計画的に進める。		R3年度の主な取り組み内容(予定含む)	・桑原57・58号線、環状線北部、小野33号線、伊台38・43号線、久枝192号線の交差点改良工事 ・湯山21号線、猿川本線の待避所設置工事		特に環境変化,障害,課題等解決のため,R3年度で取り組む改善策

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標	
活動指標 (3つまで設定可)	各路線の交差点改良数の合計	角	目標値	4	13	3	5	5	目標値	-
			実績値	4	9	4			達成年度	-
		%	達成度	100	69	133				
	指標の種類	1:単年度での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方	単年度ごとに設定するため、最終目標値の設定はできない。			
	本指標の設定理由	交差点の整備状況を示す指標であるため。								
	各路線の歩道整備延長の合計	m	目標値	0	0	0	0	0	目標値	-
			実績値	0	0	0			達成年度	-
		%	達成度	0	0	0				
	指標の種類	1:単年度での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方	単年度ごとに設定するため、最終目標値の設定はできない。			
	本指標の設定理由	歩道整備状況を示す指標であるため。								
	各路線の待避所設置数の合計	箇所	目標値	0	0	1	2	1	目標値	-
			実績値	0	0	1			達成年度	-
%		達成度	0	0	100					
指標の種類	1:単年度での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方	単年度ごとに設定するため、最終目標値の設定はできない。				
本指標の設定理由	待避所の整備状況を示す指標であるため。									
成果指標 (3つまで設定可)			目標値						目標値	
			実績値						達成年度	
		%	達成度							
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方				
	本指標の設定理由									
			目標値						目標値	
			実績値						達成年度	
		%	達成度							
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方				
	本指標の設定理由									
			目標値						目標値	
			実績値						達成年度	
%		達成度								
指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
本指標の設定理由										
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	用地、補償契約等の関係で、年度ごとの達成度に増減があるものの、概ね計画的に推移している。								
	成果指標									
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容										

令和3年度 松山市 事務事業シート <シートB>

評価実施年度	令和3年度	評価対象年度	令和2年度
--------	-------	--------	-------

令和3年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	幹線道路担当	連絡先	948-6570				
	部等長名	白石 浩人	課等長名	大政 貴史	リーダー名	副主幹	河上 康志	担当者名	主査	仙波 ミカ	技師	藤田 遼
令和2年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路建設課	担当グループ名	交通安全施設担当	連絡先	948-6476				
	部等長名	横本 勝己	課等長名	井手 英治	リーダー名	副主幹	寺岡 和紀	担当者名	技師	塩見 政博	技師	藤田 遼

1. 事業概要【Plan】 ※令和2年度の内容

事務事業名(施策コード)	33111	安全歩行空間整備事業(社会資本整備総合交付金)				事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	1:直営		
基本目標	地域の魅力・活力がふれるまち【産業・交流】					笑顔プログラム	個別プログラム	笑顔が集まるプログラム			
政策	広域拠点となる交通基盤を整備する						116	重点プロジェクト	松山への新しい人の流れをつくる「心ひかれるまちづくり」プロジェクト		
施策	良好な交通環境の整備							主な取り組み	中心市街地のにぎわいづくり		
主な取り組み	身近な交通環境の充実					市長公約					
取り組みの柱	歩いて暮らせるまちづくりの推進										
総合戦略	4222	基本目標	④住み続けたいまちをつくる(持続可能なまちづくり)			取組み	② 全庁的な防災・危機管理体制の不断の見直しを行うとともに、災害時の避難場所の整備や備蓄物資、必要な資機材の整備を進めます。また、災害時の道路遮断の防止や電力・通信網の切断被害の軽減など、都市災害の防止のため、関係機関との協議の上で計画的に無電柱化を進めます。				
		政策	②生活の質と都市力の向上								
		施策	②安全・安心な暮らしの推進								
総合計画の実施計画掲載有無(R2)		1:有り		重点的取組事業該当有無(R2)		2:無し					
根拠法令,条例,個別計画等		道路法, 道路構造令									

事業の目的(どのような状態にするか)	歩道整備により、歩行者・自転車の安全な通行を確保する。また、通学路整備により、通学児童の安全を確保する。また、無電柱化により、防災や景観に配慮した歩行者・自転車の安全な通行を確保する。									
背景(どのような経緯で開始したか)	通学路整備については、平成24年度に実施した通学路の緊急合同点検の結果、危険箇所の安全対策として歩道整備が有効であると判断された路線について、地元要望書が提出された。また、第6期・7期無電柱化推進基本計画として位置付けされている。									
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	事業対象路線に対し、主に以下3点を実施 1. 測量設計業務 2. 支障物件の移転補償 3. 無電柱化及び歩道整備工事									
受益者負担の状況	負担の有無	2:無し		「有り」の場合、基準や金額等	特定の利益に繋がるものではなく、周辺地域の振興を図るものと考えており、負担はない。					「無し」の場合、その理由
始期・終期(年度)	平成	22	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期			

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	土木費	項	道路橋梁費	目	交通安全施設等整備事業費	R2 予算措置時期		
									当初	繰越	3月補正
				R元年度		R2年度		R3年度			
現計予算額(A)(単位:千円)				868,883		816,442		670,733			
決算額(B)(単位:千円)				310,702		388,718					
内訳(単位:千円) ※R元→R2 決算内訳, R3→予算内訳	国支出金			146,074		190,341		333,544			
	県支出金			0		0		0			
	市債			129,400		166,200		261,300			
	その他			0		50		0			
一般財源				35,228		32,127		75,889			
主な経費(単位:千円) ※R2→決算,R3→予算						・委託料:64,121千円 ・工事請負費:263,377千円 ・補償補填及び賠償金:52,346千円		・委託料:164,555千円 ・工事請負費:489,090千円 ・補償補填及び賠償金:7,000千円			
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等						予算額のうち512,684千円は、前年度繰り越し分 3月補正で95,000千円追加		予算額のうち197,471千円は、前年度繰越分			
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		558,181		427,724			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R2年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 松山環状線西部実施設計業務委託 榎屋町護国神社前線の道路改良工事 松山環状線南部、千舟町古川線、石井268号線、中央循環線、宮前21号線の歩道整備工事 三番町線、千舟町空港線の電線共同溝予備設計業務 										
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下		左記の理由として良かった点,悪かった点など			年度内完成ができなかった路線もあるが、用地・補償契約、道路整備・歩道整備工事や電線共同溝の設計業務は計画的に進んでいる。				
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由		本事業の実施により、通学路及び無電柱化の整備が進むことにより、歩行者等の交通安全確保が図られるため。						
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない			公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない			
R2年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	国からの交付金を受け実施しているため、内示率が低いと完成時期が遅れる可能性がある。										
R3年度の目標	各路線について、用地買収、補償契約や工事発注を計画的に進める。			R3年度の主な取り組み内容(予定含む)			<ul style="list-style-type: none"> 松山環状線西部・南部の歩道整備工事 二番町線・中央循環線の歩道整備工事 榎屋町護国神社前線の道路改良工事及び踏切拡幅工事 河野五明線の歩道整備工事 		特に環境変化,障害,課題等解決のため,R3年度で取り組む改善策		松山都市圏道路整備促進期成同盟会等による中央要望活動の強化

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	各路線の電線共同溝整備延長の合計	m	目標値	2,370	2,370	2,370	2,370	2,570	目標値	3,990	
			実績値	2,370	2,370	2,370	2,370	達成年度	R10年度		
		%	達成度	100	100	100					
	指標の種類	3:累計での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方	電線共同溝整備延長の合計が無電柱化の指標となる。				
	本指標の設定理由	電線共同溝の整備状況を示す指標であるため。									
	各路線の歩道整備延長の合計	m	目標値	11,224	13,123	13,258	14,504	15,828	目標値	19,668	
			実績値	10,309	10,870	12,208	達成年度	R10年度			
		%	達成度	92	83	92					
	指標の種類	3:累計での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方	各路線で整備する歩道延長の合計が交通安全対策の指標となる。				
	本指標の設定理由	歩道整備状況を示す指標であるため。									
		目標値						目標値			
		実績値						達成年度			
	%	達成度									
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)		目標値							目標値		
		実績値							達成年度		
		%	達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
		目標値							目標値		
		実績値							達成年度		
		%	達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	電線共同溝整備について、第6期区間は全て整備できた。									
	成果指標										
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和3年度 松山市 事務事業シート <シートB>

評価実施年度	令和3年度	評価対象年度	令和2年度
--------	-------	--------	-------

令和3年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	幹線道路担当	連絡先	948-6476				
	部等長名	白石 浩人	課等長名	大政 貴史	リーダー名	副主幹	河上 康志	担当者名	主査	神野 斎	主任	重松 慎哉
令和2年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路建設課	担当グループ名	街路・幹線道路担当	連絡先	948-6570				
	部等長名	横本 勝己	課等長名	井手 英治	リーダー名	副主幹	河上 康志	担当者名	主査	神野 斎	主任	重松 慎哉

1. 事業概要【Plan】 ※令和2年度の内容

事務事業名(施策コード)	33211	街路・幹線道路整備事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	1:直営
基本目標	地域の魅力・活力がふれるまち【産業・交流】		笑顔プログラム	115	個別プログラム	笑顔が集まるプログラム
政策	広域拠点となる交通基盤を整備する				重点プロジェクト	松山への新しい人の流れをつくる「心ひかれるまちづくり」プロジェクト
施策	交通基盤の整備				主な取り組み	交通ネットワークの強化
主な取り組み	幹線道路網の整備		市長公約	513	自分たちのまちに愛着や誇りをもち、住み続けたい松山をつくります	
取り組みの柱	幹線道路のネットワーク化				コンパクトシティのシンボル広場として駅前広場を整備し、公共交通の利用を促すほか、歩行者の賑わいを中心市街地に取り戻します。また、JR松山駅周辺やインター東線など、社会基盤整備を着実に進めます。	
総合戦略	4215	基本目標	④住み続けたいまちをつくる(持続可能なまちづくり)	取組み	⑤松山外環状道路の整備により、市内中心部の渋滞緩和や交通拠点間のアクセス向上に加え、物流の効率化による民間投資の誘発促進など、松山圏域の交流ネットワークの強化を図ります。	
		政策	②生活の質と都市力の向上			
		施策	①民間経済の活力創出と都市機能・居住環境の向上			
総合計画の実施計画掲載有無(R2)	1:有り		重点的取組事業該当有無(R2)	1:有り		

根拠法令,条例,個別計画等	道路法, 道路構造令						
事業の目的(どのような状態にするか)	中心市街地と基幹的な連絡道路となる都市計画道路や幹線道路の整備を行い、中心部の交通混雑の解消・緩和や通行の安全性を確保し、都市交通の円滑化や都市機能の強化を図ることを目的とする。						
背景(どのような経緯で開始したか)	社会資本整備総合交付金等の国費を活用し、街路・幹線道路の整備や関連事業、ソフト事業を総合的・一体的に実施している。自動車交通への過度な依存を抑え、交通環境の改善や移動しやすい道路環境の充実を目指している。本市の特徴である放射環状型道路網の構築に向けて、松山外環状道路や主要幹線街路の未整備区間を整備し、効率的な道路ネットワークの構築を目指す。						
対象・事業内容(誰に対して,何をやるのか)	事業対象路線に対し、主に以下4点を実施 1. 説明会等の開催や周知 2. 測量設計業務・土地調査業務の実施 3. 用地買収や支障物件の移転補償等の実施 4. 工事の実施						
受益者負担の状況	負担の有無	2:無し	「有り」の場合,基準や金額等	特定の利益に繋がるものではなく、周辺地域の振興を図るものと考えており、負担はない。			
始期・終期(年度)	平成	22	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	土木費	項	都市計画費	目	街路事業費	R2 予算措置時期		
									当初	繰越	3月補正
				R元年度		R2年度		R3年度			
現計予算額(A)(単位:千円)						382,406		371,930			498,859
決算額(B)(単位:千円)						230,611		197,810			
内訳(単位:千円) ※R元→R2 決算内訳, R3→予算内訳				国支出金		97,399		101,305			240,053
				県支出金		0		0			0
				市債		108,200		87,900			192,600
				その他		23		0			18,322
			一般財源		24,989		8,605			47,884	
主な経費(単位:千円) ※R2→決算,R3→予算							・委託料:18,107千円 ・工事請負費:8,671千円 ・補償補填及び賠償金:137,164千円			・委託料:103,943千円 ・工事請負費:166,107千円 ・補償補填及び賠償金:141,108千円	
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等							予算額のうち84,280千円は、前年度繰り越し分 3月補正で30,000千円追加			予算額のうち172,589千円は、前年度からの繰り越し分	
予算執行残額(単位:千円)		(A)-(B)				151,795		174,120			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R2年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	・松山外環状道路(インター東線)の説明会開催や現地協議 ・中之川通線の用地取得及び移転補償交渉・契約 ・本町宝塔寺線の用地取得及び移転補償交渉・契約					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	調査や用地・補償契約は計画的に進んでいる。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	基幹道路の整備により、市民生活の安全性と利便性の向上を図ることができるため。			
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R2年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	国から交付金を受け実施しているため、内示率が低いと完成時期が遅れる可能性がある。道路用地の取得に向けた地権者交渉が難航した場合は、完成時期が遅れる可能性がある。					
R3年度の目標	・松山外環状道路(インター東線)の事業承認(認可)の年度内取得を目指す。 ・中之川通線の用地・補償契約の年度内完了を目指す。 ・本町宝塔寺線の用地・補償契約の年度内完了を目指す。		R3年度の主な取り組み内容(予定含む)	・松山外環状道路(インター東線)の道路設計、地元説明会(事業承認)開催 ・中之川通線の計画的な用地・補償契約 ・本町宝塔寺線の計画的な用地・補償契約	特に環境変化,障害,課題等解決のため,R3年度で取り組む改善策	・松山外環状道路(インター東線)の道路設計、地元説明会開催 ・中之川通線の計画的な用地・補償契約 ・本町宝塔寺線の計画的な用地・補償契約

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	松山外環状道路(インター東線)の整備延長	m	目標値	-	-	-	-	-	目標値	1,600	
			実績値	-	-	-	-	-	達成年度	R10年度	
			% 達成度	-	-	-	-	-			
	指標の種類	3:累計での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方		道路整備延長の累計合計を目標値とする。			
	本指標の設定理由	本事業の目的とする指標であるため。									
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
			% 達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
		% 達成度									
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
		目標値							目標値		
		実績値							達成年度		
		% 達成度									
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)			目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
			% 達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
			目標値							目標値	
			実績値						達成年度		
			% 達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
		% 達成度									
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	松山外環状道路(インター東線)は、平成30年度新規事業の為、目標値及び実績値が発現する工事着手までには数年を要する。									
	成果指標										
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和3年度 松山市 事務事業シート <シートB>

評価実施年度	令和3年度	評価対象年度	令和2年度
--------	-------	--------	-------

令和3年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	生活道路担当	連絡先	948-6464				
	部等長名	白石 浩人	課等長名	大政 貴史	リーダー名	副主幹	村井 望	担当者名	主査	加地 幸徳	技師	村上 和宏
令和2年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路建設課	担当グループ名	生活道路担当	連絡先	948-6464				
	部等長名	横本 勝己	課等長名	井手 英治	リーダー名	副主幹	村井 望	担当者名	主査	加地 幸徳	主任	仲岡 光生

1. 事業概要【Plan】 ※令和2年度の内容

事務事業名(施策コード)	51111	道路橋梁災害復旧事業(補助)	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	1:直営	
基本目標	緑の映える快適なまち【環境・都市】		笑顔プログラム	個別プログラム	-		
政策	快適な生活基盤をつくる			重点プロジェクト	-		
施策	居住環境の整備			主な取り組み	-		
主な取り組み	生活道路等の整備・維持管理		市長公約	431	元気な産業を応援し、成長する松山をつくり出す		
取り組みの柱	生活道路等の維持管理				西日本豪雨からの一刻も早い復旧をはじめ、担い手の確保や地域・大学と連携した有害鳥獣対策など、松山の農業を守ります。また、ブランド産品の販路拡大、6次産業化の促進など、儲かる農林水産業を推進します。		
総合戦略	基本目標	-	取組み	-			
	政策	-					
	施策	-					
総合計画の実施計画掲載有無(R2)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R2)	2:無し				
根拠法令,条例,個別計画等	公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法						
事業の目的(どのような状態にするか)	台風等の自然災害により崩壊した市道の機能回復を目的とする。(平成30年7月及び令和2年7月豪雨災害対応)						
背景(どのような経緯で開始したか)	災害で被災した河川兼用護岸・道路側など市の道路構造物について、早期に復旧し市民の安全安心な交通を確保する必要があることから、災害復旧事業費国庫負担金等の国の支援を活用し、復旧事業を実施する。						
対象・事業内容(誰に対して,何をやるのか)	自然災害により崩壊した市道の道路施設に対し、主に以下3点を実施 1. 被災箇所の調査及び復旧方法の検討(道路設計) 2. 国の災害査定(事業採択) 3. 工事の実施						
受益者負担の状況	負担の有無	2:無し	「有り」の場合,基準や金額等 「無し」の場合,その理由	特定の利益に繋がるものではなく、市道の機能回復を図るものと考えており、負担はない。			
始期・終期(年度)	平成	30	～	令和	3	終期の種別	1:事業の終了時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	土木費	項	土木施設災害復旧費	目	道路橋梁災害復旧費	R2 予算措置時期	繰越	9月補正	
								R2年度	R2年度	R3年度		
現計予算額(A) (単位:千円)						364,295		341,271			113,515	
決算額(B) (単位:千円)						275,813		167,791				
内訳 (単位:千円) ※R元→R2 決算内訳, R3→予算内訳						国支支出金		141,836		97,239		49,263
						県支支出金		0		0		0
						市債		104,400		53,800		53,600
						その他		0		0		0
			一般財源		29,577		16,752		10,652			
主な経費(単位:千円) ※R2→決算,R3→予算						・委託料:20,185千円 ・工事請負費:147,550千円		・委託料:25,669千円 ・工事請負費:87,812千円				
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等						予算額のうち82,481千円は、前年度繰り越し分 9月補正で258,790千円追加		全額前年度からの繰り越し分				
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		88,482		173,480				

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R2年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	興居島42号線外3路線の災害復旧工事(平成30年7月豪雨災害対応分) 堀江204号線外10路線の災害復旧工事(令和2年7月豪雨災害対応分)					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	(平成30年7月豪雨災害対応分)4路線の災害復旧工事は、令和2年度に完成 (令和2年7月豪雨災害対応分)11路線の災害復旧工事は、令和2年度に工事発注し受注業者は決定したが、全工事とも令和3年度に繰越した。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	自然災害により崩壊した市道の機能を回復することにより、地域に貢献している。			
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R2年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	自然環境が変化し、豪雨災害が毎年発生するようになった。					
R3年度の目標	令和3年度に繰越した11路線の災害復旧工事の早期完成 災害発生時の迅速な対応	R3年度の主な取り組み内容(予定含む)	災害査定マニュアルをもとに、梅雨時期までに災害発生時の対応に関する職場研修を行う。	特に環境変化,障害,課題等解決のため,R3年度で取り組む改善策	災害対応を通じて改善すべき事項が生じた際は、災害査定マニュアルを更新する。	

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	災害復旧工事の完了件数	件	目標値	48	48	58	58	-	目標値	58	
			実績値	2	44	48			達成年度	R3年度	
			% 達成度	4	92	83					
	指標の種類	3:累計での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方	平成30年7月及び令和2年7月豪雨災害に伴う被災路線について、道路建設課が実施する全災害復旧工事の件数を目標値とする。				
	本指標の設定理由	災害復旧への取り組み状況が示されているため。									
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
				% 達成度							
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
% 達成度											
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)			目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
			% 達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
				% 達成度							
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
% 達成度											
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	平成30年7月の豪雨災害対応分の工事は、令和2年度中に完成した。令和2年7月の豪雨災害対応分の工事は、国の災害査定後の工事発注になり年度内に十分な工期が確保できないこと、農作物の収穫時期を考慮した施工時期の調整に時間を要することなどの理由により、年度内完成ができなかった。									
	成果指標										
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和3年度 松山市 事務事業シート <シートB>

評価実施年度	令和3年度	評価対象年度	令和2年度
--------	-------	--------	-------

令和3年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	生活道路担当	連絡先	948-6464			
	部長名	白石 浩人	課等長名	大政 貴史	リーダー名	副主任	担当者名	主査	加地 幸徳	技師	村上 和宏
令和2年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路建設課	担当グループ名	生活道路担当	連絡先	948-6464			
	部長名	横本 勝己	課等長名	井手 英治	リーダー名	副主任	担当者名	主査	加地 幸徳	主任	仲岡 光生

1. 事業概要【Plan】 ※令和2年度の内容

事務事業名(施策コード)	51112	生活道路整備事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	1:直営
基本目標	緑の映える快適なまち【環境・都市】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	快適な生活基盤をつくる			重点プロジェクト	-	
施策	居住環境の整備			主な取り組み	-	
主な取り組み	生活道路等の整備・維持管理		市長公約			
取り組みの柱	生活道路の整備					
総合戦略	基本目標	-				
	政策	-				
	施策	-				
総合計画の実施計画掲載有無(R2)	1:有り	重点的取組事業該当有無(R2)	2:無し			
根拠法令,条例,個別計画等	道路法, 道路構造令					

事業の目的(どのような状態にするか)	生活道路は幹線道路を補完し、日常生活や救急活動を行う上で重要な役割を担う道路であることから、現状を踏まえ利用形態等に応じた効率的・効果的な道路の拡幅を行うことで、地域住民の安全安心な交通の確保や快適な生活環境を創出することを目的とする。					
背景(どのような経緯で開始したか)	生活道路は幅員が狭小で市民の安全安心な交通の確保が出来ていない路線が数多く見られるが、道路の拡幅には沿線の土地地権者の用地提供が必要なことから、地元代表者の要望申請により道路整備事業を行っている。 また、道路の財源は市の単独予算を基本とする。					
対象・事業内容(誰に対して,何をやるのか)	事業対象路線に対し、主に以下4点を実施 1. 道路事業地元要望書受領 2. 事業の着手 (道路設計、用地調査、建物調査の委託) 3. 用地補償 (用地・補償費の算定、用地・補償費の契約、物件の移転と道路用地の登記) 4. 工事の実施					
受益者負担の状況	負担の有無	2:無し	「有り」の場合,基準や金額等 「無し」の場合,その理由	特定の利益に繋がるものではなく、周辺地域の振興を図るものと考えており、負担はない。		
始期・終期(年度)	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期	

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	土木費	項	道路橋梁費	目	生活道路整備事業費	R2 予算措置時期		
									当初	繰越	
				R元年度		R2年度		R3年度			
現計予算額(A) (単位:千円)				466,341		293,456		160,163			
決算額(B) (単位:千円)				227,197		206,129					
内訳 (単位:千円) ※R元→R2 決算内訳, R3→予算内訳	国支出金			0		0		0			
	県支出金			0		0		0			
	市債			23,600		62,800		0			
	その他			0		0		0			
一般財源			203,597		143,329		160,163				
主な経費(単位:千円) ※R2→決算,R3→予算				委託料:23,982千円 工事請負費:121,938千円 補償補填及び賠償金:44,783千円		委託料:24,436千円 工事請負費:121,616千円 補償補填及び賠償金:7,680千円		予算額のうち154,039千円は、前年度繰り越し分 予算額のうち80,696千円は、前年度繰り越し分			
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等											
予算執行残額 (単位:千円)				(A)-(B)		239,144		87,327			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R2年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	桑原82号線等の道路工事、測量設計、用地補償、物件補償					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	道路線形や用地補償、物件補償に関する地元住民の合意形成に時間を要したが、進捗に関しては計画的に進んでいる。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	事業実施箇所は、道路幅員が狭く車両の通行に支障をきたしているため、道路整備を行うことで通行の安全を確保することが出来る。			
事業の公共性	必要性	1 1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1 1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない		
R2年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	近年の厳しい財政事情により、予算と要望件数のバランスが合わず、未完了件数が減少しない状況が続いているため、令和2年度に、生活道路整備事業の運用見直しに伴う事業実施要領を制定した。					
R3年度の目標	事業量(工事、測量設計、用地補償、物件補償)の年度内進捗率100%を目標とする。	R3年度の主な取り組み内容(予定含む)	測量設計委託 2路線 用地・物件補償 2路線 工事 4路線	特に環境変化,障害,課題等解決のため,R3年度で取り組む改善策	令和3年度以降に受付する要望については、生活道路整備事業実施要領に基づき、要望区間を評価表により評価し、費用対効果のある整備を行う。	

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標			
活動指標 (3つまで設定可)	工事延長	m	目標値	1,060	800	500	330	190	目標値	-		
			実績値	609	535	598			達成年度	-		
		%	達成度	57	67	120						
	指標の種類	1:単年度での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方	生活に直結する生活道路の整備改良である為、設定できない。					
	本指標の設定理由	要望路線の完成により、目標が達成される。										
	要望箇所の実施完成 路線数(H14~R2)	累計路線数	目標値	415	410	419	434	449	目標値	-		
			実績値	263	288	306			達成年度	-		
		%	達成度	6	17	14						
	指標の種類	3:累計での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方	毎年、要望路線が追加され、それら全てを完成させることが目標であるため、設定できない。					
	本指標の設定理由	要望路線の完成により、目標が達成される。										
		目標値							目標値			
		実績値							達成年度			
	%	達成度										
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
	本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)		目標値							目標値			
		実績値							達成年度			
		%	達成度									
		指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
		本指標の設定理由										
		目標値							目標値			
		実績値							達成年度			
		%	達成度									
		指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
		本指標の設定理由										
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	道路線形や土地の買収・物件補償に関する地元住民の合意形成が順調に進んだため、実績が目標を上回っている。										
	成果指標											
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容	道路拡幅等による車両および歩行者の安全性の確保、利便性の向上											

令和3年度 松山市 事務事業シート <シートB>

評価実施年度	令和3年度	評価対象年度	令和2年度
--------	-------	--------	-------

令和3年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	生活道路担当	連絡先	948-6464				
	部等長名	白石 浩人	課等長名	大政 貴史	リーダー名	副主幹	村井 望	担当者名	主査	加地 幸徳	技師	村上 和宏
令和2年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路建設課	担当グループ名	生活道路担当	連絡先	948-6476				
	部等長名	横本 勝己	課等長名	井手 英治	リーダー名	副主幹	村井 望	担当者名	主査	加地 幸徳	主任	仲間 光生

1. 事業概要【Plan】 ※令和2年度の内容

事務事業名(施策コード)	51112	生活道路整備事業(社会資本整備総合交付金)					事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	1:直営
基本目標	緑の映える快適なまち【環境・都市】					笑顔プログラム	313	個別プログラム	笑顔を守るプログラム	
政策	快適な生活基盤をつくる							重点プロジェクト	みんなで守り助け合う「安心して暮らせるまちづくり」プロジェクト	
施策	居住環境の整備							主な取り組み	耐震化対策の推進	
主な取り組み	生活道路等の整備・維持管理					市長公約				
取り組みの柱	生活道路の整備									
総合戦略	4311	基本目標	④住み続けたいまちをつくる(持続可能なまちづくり)			取組み	① 公共施設等総合管理計画等に基づき、道路施設や市営住宅、漁港・港湾施設、上下水道、学校施設等の施設類型ごとに財源の見直しを踏まえた改修・更新等の具体的な対応方針を定める個別施設計画を策定し、マネジメントの強化に努めます。また、策定した個別施設計画を踏まえて総合管理計画を改訂し、内容を充実させます。			
		政策	③人口減少等を踏まえた既存ストックのマネジメント強化							
		施策	①官と民の既存ストックのマネジメント強化							
総合計画の実施計画掲載有無(R2)	1:有り		重点的取組事業該当有無(R2)		2:無し					
根拠法令,条例,個別計画等	道路法, 道路構造令									

事業の目的(どのような状態にするか)	生活道路は幹線道路を補完し、日常生活や救急活動を行う上で重要な役割を担う道路であることから、現状を踏まえ利用形態等に応じた効率的・効果的な道路の拡幅を行うことで、地域住民の安全安心な交通の確保や快適な生活環境を創出することを目的とする。								
背景(どのような経緯で開始したか)	生活道路は幅員が狭小で市民の安全安心な交通の確保が出来ていない路線が数多く見られるが、道路の拡幅には沿線の土地地権者の用地提供が必要なことから、地元代表者の要望申請により道路整備事業を行っている。 また、道路の財源は国の社会資本整備総合交付金及び道路メンテナンス事業補助金を活用する。								
対象・事業内容(誰に対して,何をやるのか)	事業対象路線に対し、主に以下4点を実施 1. 道路事業地元要望書受領 2. 事業の着手(道路設計、用地調査、建物調査の委託) 3. 用地補償(用地・補償費の算定、用地・補償費の契約、物件の移転と道路用地の登記) 4. 工事の実施								
受益者負担の状況	負担の有無	2:無し		「有り」の場合,基準や金額等	特定の利益に繋がるものではなく、周辺地域の振興を図るものと考えており、負担はない。				
始期・終期(年度)	平成	22		～	令和	4		終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	土木費		項		道路橋梁費		目		生活道路整備事業費	R2 予算措置時期	当初	繰越	3月補正	
				R元年度	R2年度	R元年度	R2年度	R元年度	R2年度	R元年度	R2年度						
現計予算額(A)(単位:千円)					278,574					388,514						391,503	
決算額(B)(単位:千円)					135,816					173,035							
内訳(単位:千円) ※R元→R2 決算内訳, R3→予算内訳				国支出金	65,282					85,235						197,098	
				県支出金	0					0						0	
				市債	58,700					78,200							171,000
				その他	0					0							0
			一般財源	11,834					9,600						23,405		
主な経費(単位:千円) ※R2→決算,R3→予算										・委託料:2,584千円 ・工事請負費:161,593千円 ・補償補填及び賠償金:7,405千円					・委託料:29,038千円 ・工事請負費:349,857千円 ・補償補填及び賠償金:7,940千円		
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等										予算額のうち114,469千円は、前年度繰り越し分 3月補正で57,000千円追加					予算額のうち193,300千円は、前年度繰り越し分		
予算執行残額(単位:千円)			(A)-(B)		142,758					215,479							

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R2年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 小野33号線ほか 湯山10号線 浅海難波線 潮見134号線 上記路線の道路工事、測量設計、用地補償、物件補償														
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下		左記の理由として良かった点,悪かった点など			国の交付金及び補助金が要望額どおりであったため、計画的に進捗している。								
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由		事業実施箇所は、道路幅員が狭小車両の通行に支障をきたしているため、道路整備を行うことで通行の安全を確保することが出来る。										
事業の公共性	必要性	1		1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない			公益性	1		1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない					
R2年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	近年の厳しい財政事情により、予算と要望件数のバランスが合わず、未完了件数が減少しない状況が続いているため、令和2年度に、生活道路整備事業の運用見直しに伴う事業実施要領を制定した。														
R3年度の目標	交付金及び補助金の配分に応じた事業量(工事、測量設計、用地補償、物件補償)の年度内進捗率100%を目標とする。			R3年度の主な取り組み内容(予定含む)			<ul style="list-style-type: none"> 湯山10号線橋梁整備工事 浅海難波線道路改良工事 潮見134号線道路改良工事 高田大本線道路改良工事 桑原82号線道路改良工事 西中島1号線道路整備工事 堀江86号線道路整備工事 			特に環境変化,障害,課題等解決のため,R3年度で取り組む改善策			令和3年度以降に受付する要望については、生活道路整備事業実施要領に基づき、要望区間を評価表により評価し、費用対効果のある整備を行う。		

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	工事延長	m	目標値	3,151	3,151	3,321	4,358	6,998	目標値	7,348	
			実績値	1,841	1,928	2,022			達成年度	R8年度	
		%	達成度	18	7	7					
	指標の種類	3:累計での増加を目指す指標					最終目標値の設定の考え方		R8年度に完成可能な工事延長を設定している。		
	本指標の設定理由	事業の直接的な目的指標である。									
			目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
		%	達成度								
	指標の種類						最終目標値の設定の考え方				
	本指標の設定理由										
		目標値						目標値			
		実績値						達成年度			
	%	達成度									
指標の種類						最終目標値の設定の考え方					
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)			目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
		%	達成度								
	指標の種類						最終目標値の設定の考え方				
	本指標の設定理由										
			目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
		%	達成度								
	指標の種類						最終目標値の設定の考え方				
	本指標の設定理由										
		目標値						目標値			
		実績値						達成年度			
	%	達成度									
指標の種類						最終目標値の設定の考え方					
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	令和8年度の目標値達成に向けて、事業は順調に進んでいる。ただし、国の交付金等の内示率が低くなると、目標達成が困難になる。									
	成果指標										
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容	道路拡幅等による車両および歩行者の安全性の確保、利便性の向上										

令和3年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	総務担当	連絡先	948-6477			
	部等長名	白石 浩人	課等長名	大政 貴史	リーダー名	副主幹	谷久 明孝	担当者名	主任	松田 理奈	
令和2年度	部局等名	下水道部	課等名	河川水路課	担当グループ名	総務担当	連絡先	948-6539			
	部等長名	白石 邦彦	課等長名	白方 秀明	リーダー名	副主幹	山本 浩司	担当者名	主任	松田 理奈	主事 伊藤 良輔

1. 事業概要【Plan】 ※令和2年度の内容

事務事業名(施策コード)	21131	河川水路事務事業(一般会計)	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	1:直営
基本目標	生活に安らぎのあるまち【安全・安心】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	災害等に強いまちをつくる			重点プロジェクト	-	
施策	防災対策等の推進			主な取り組み	-	
主な取り組み	浸水対策・がけ崩れ対策の推進		市長公約			
取り組みの柱	河川改修の推進					
総合戦略	基本目標	-				
	政策	-				
	施策	-				
総合計画の実施計画掲載有無(R2)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R2)	2:無し			

根拠法令,条例,個別計画等						
事業の目的(どのような状態にするか)	生活環境保全のため市内全域にわたり、下水排水路の新設改良等や準用河川の改修等に従事する職員の庁費等を計上するもの。					
背景(どのような経緯で開始したか)	下水排水路等の整備にあたり、内部管理事務として開始					
対象・事業内容(誰に対して,何をやるのか)	道路河川整備課職員の業務遂行にあたり、必要な知識、技能の取得、向上を図るため各種研修会への参加や書籍の購入等を行う。愛媛県下の3市2町で構成する重信川・右手川治水同盟会の事務局として、国への要望活動などを行う。					
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合,基準や金額等「無し」の場合,その理由			
始期・終期(年度)	~ 令和 4		終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期		

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	土木費		河川費		河川総務費		R2予算措置時期	当初
				目	項	目	項	目	項		
				R元年度		R2年度		R3年度			
現計予算額(A)(単位:千円)				1,532		864		627			
決算額(B)(単位:千円)				1,380		155					
内訳(単位:千円) ※R元→R2 決算内訳, R3→予算内訳	国支出金			0		0		0			
	県支出金			0		0		0			
	市債			0		0		0			
	その他			499		31		430			
一般財源			881		124		197				
主な経費(単位:千円) ※R2→決算,R3→予算				・旅費:40千円 ・需用費:115千円		・旅費:577千円 ・需用費:29千円					
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等											
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		152		709			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R2年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	四国地方治水大会、四国河川協議会要望活動への出席・参加等について、新型コロナウイルスの影響で書面開催や中止となった。											
主な取り組み内容の達成度	↓	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下		左記の理由として良かった点,悪かった点など			事業の中止等は、新型コロナウイルス拡大防止に伴うやむを得るものである。					
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	4:どちらもいえない		左記の理由			内部管理業務のため						
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない			公益性	3	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない				
R2年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	特になし											
R3年度の目標	引き続き、道路河川整備課職員の業務遂行にあたり、必要な知識、技能の取得、向上を図るため各種研修会への参加や書籍の購入等や重信川・右手川治水同盟会の事務局として、国への要望活動などを行う。			R3年度の主な取り組み内容(予定含む)			四国地方治水大会(松山市)、河川管理研修(東京都)、四国河川協議会総会(大洲市)、四国河川協議会要望活動(東京都)などへの出席、参加			特に環境変化,障害,課題等解決のため,R3年度で取り組む改善策		特になし

令和3年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	総務担当	連絡先	948-6477			
	部等長名	白石 浩人	課等長名	大政 貴史	リーダー名	副主幹	寺岡 和紀	担当者名	主任	松田 理奈	
令和2年度	部局等名	下水道部	課等名	河川水路課	担当グループ名	総務担当	連絡先	948-6539			
	部等長名	白石 邦彦	課等長名	白方 秀明	リーダー名	副主幹	山本 浩司	担当者名	主任	松田 理奈	主事 伊藤 良輔

1. 事業概要【Plan】 ※令和2年度の内容

事務事業名(実施コード)	21131	治水等促進団体負担金事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	5:補助金・負担金
基本目標	生活に安らぎのあるまち【安全・安心】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	災害等に強いまちをつくる			重点プロジェクト	-	
施策	防災対策等の推進			主な取り組み	-	
主な取り組み	浸水対策・がけ崩れ対策の推進		市長公約			
取り組みの柱	河川改修の推進					
総合戦略	4411	基本目標	④住み続けたいまちをつくる(持続可能なまちづくり)			
		政策	④近隣地域との連携による経済・生活圏の形成			
		施策	①連携中核都市圏構想の推進			
総合計画の実施計画掲載有無(R2)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R2)	2:無し	① 松山圏域(松山市、伊予市、東温市、久万高原町、松前町及び砥部町)が連携し、それぞれの地域が持つ特色を生かした魅力ある圏域づくりを進めることで、圏域の人口減少に歯止めをかけ、将来に向けて持続可能な地域社会の形成を目指します。		
根拠法令,条例,個別計画等						

事業の目的(どのような状態にするか)	当該が所管する、河川や海岸に関する情報共有や知識の向上を図るための、全国組織(日本河川協会及び全国海岸協会)の会費や四国及び周辺市町で構成する治水事業の促進を目的とした協議会など(重信川・右手川治水同盟会、四国河川協議会)へ負担金を納付する。					
背景(どのような経緯で開始したか)	日本河川協会及び全国海岸協会は情報共有や知識の向上を図る目的で加入 重信川・右手川治水同盟会、四国河川協議会は関係市町村で設置、本市は設置当初から加入					
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	日本河川協会、全国海岸協会、重信川・右手川治水同盟会、四国河川協議会からの会費や負担金請求に基づき納付。なお、松山市長が、四国河川協議会では副会長、重信川・右手川治水同盟会では会長を務めており、主体的に両会の活動を進めている。 ○日本河川協会:安全かつ快適で自然豊かな河川を実施するための活動を行う。 ○全国海岸協会:海岸に関する知識の普及、海岸事業の推進を図るための活動を行う。 ○重信川・右手川治水同盟会:国直轄河川である重信川・右手川にかかる治水事業を促進するための活動を行い、流域住民等を水害の被害から未然に防止する。 ○四国河川協議会:四国の二級河川、準用河川にかかる治水事業を促進するため活動を行うことにより、市内の河川整備等が促進され、流域住民等を水害被害を軽減する。					
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由			
始期・終期(年度)	~	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期	

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	R元年度		R2年度		R3年度		
				土木費	項	河川費	目	河川総務費	R2 予算措置時期	当初
現計予算額(A)(単位:千円)					846		846		120	
決算額(B)(単位:千円)					846		846			
内訳(単位:千円) ※R元→R2 決算内訳, R3→予算内訳				国支出金	0		0		0	
				県支出金	0		0		0	
				市債	0		0		0	
				その他	0		0		0	
				一般財源	846		846		120	
主な経費(単位:千円) ※R2→決算,R3→予算									・負担金補助及び交付金:846千円	・負担金補助及び交付金:120千円
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等										
予算執行残額(単位:千円)		(A)-(B)			0		0			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R2年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	日本河川協会会費、全国海岸協会会費、重信川・右手川治水同盟会、四国河川協議会負担金を納付した。					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	河川水路課職員の知識向上や他都市との交流による情報共有を図ることが出来た。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	間接的ではあるが、河川水路課職員の知識向上や他都市との交流による情報共有を図ることができ、治水対策等の推進に寄与できたと考えているため			
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	3	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R2年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	特になし					
R3年度の目標	引き続き、各組織への参画により、河川や海岸に関する情報共有や知識の向上に努める。	R3年度の主な取り組み内容(予定含む)	日本河川協会会費、全国海岸協会会費、重信川・右手川治水同盟会負担、四国河川協議会負担金を納付する。	特に環境変化,障害,課題等解決のため,R3年度で取り組む改善策	特になし	

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標	
活動指標 (3つまで設定可)	要望参加回数	回	目標値	2	2	2	2	2	目標値	2
			実績値	2	2	2	2	2	達成年度	-
			% 達成度	100	100	100				
	指標の種類	1:単年度での増加を目指す指標								
	本指標の設定理由	恒常的に国等へ要望を実施する必要があるため。					最終目標値の設定の考え方		本市単独で要望するより、四国治水期成同盟連合会など関係する団体等と協力し、積極的に要望していくことが重要であり、当該団体での要望活動回数が年度2回(夏・秋)となっているため。	
			目標値						目標値	
			実績値						達成年度	
		%	達成度							
	指標の種類									
	本指標の設定理由						最終目標値の設定の考え方			
		目標値						目標値		
		実績値						達成年度		
	%	達成度								
指標の種類										
本指標の設定理由						最終目標値の設定の考え方				
成果指標 (3つまで設定可)			目標値						目標値	
			実績値						達成年度	
		%	達成度							
	指標の種類									
	本指標の設定理由						最終目標値の設定の考え方			
			目標値						目標値	
			実績値						達成年度	
		%	達成度							
	指標の種類									
	本指標の設定理由						最終目標値の設定の考え方			
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	関係団体と協調し、計画どおりに年度2回の要望活動に参加している。								
	成果指標									
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容										

令和3年度 松山市 事務事業シート <シートB>

評価実施年度	令和3年度	評価対象年度	令和2年度
--------	-------	--------	-------

令和3年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	河川・がけ担当	連絡先	948-6838				
	部等長名	白石 浩人	課等長名	大政 貴史	リーダー名	副主幹	寺岡 和紀	担当者名	主任	奥野 真治	主任	永井 勝也
令和2年度	部局等名	下水道部	課等名	河川水路課	担当グループ名	河川・水路・がけ担当	連絡先	948-6521				
	部等長名	白石 邦彦	課等長名	白方 秀明	リーダー名	主幹	山内 潤一	担当者名	副主幹	田井 理仁	主任	奥野 真治

1. 事業概要【Plan】 ※令和2年度の内容

事務事業名(施策コード)	21131	準用河川改修事業	事業性質	1-2:自治事務(できる規定あり)	事業区分	1:直営
基本目標	生活に安らぎのあるまち【安全・安心】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	災害等に強いまちをつくる			重点プロジェクト	-	
施策	防災対策等の推進			主な取り組み	-	
主な取り組み	浸水対策・がけ崩れ対策の推進		市長公約	-		
取り組みの柱	河川改修の推進			-		
総合戦略	基本目標	-				
	政策	-				
	施策	-				
総合計画の実施計画掲載有無(R2)	1:有り	重点的取組事業該当有無(R2)	2:無し			
根拠法令,条例,個別計画等	河川法第100条					

事業の目的(どのような状態にするか)	準用河川改修事業計画に基づく浸水被害の解消を目的とする。					
背景(どのような経緯で開始したか)	洪水による災害発生の防止を行うことにより、流域住民の生命と財産を守る。					
対象・事業内容(誰に対して,何をやるのか)	①傍示川の2箇所の測量設計業務委託の実施 ②光正寺川(平井町)の管理道舗装工事の実施 ③洗地川の松山市管理道舗装工事の実施 ④久保田川の護岸嵩上げ工事の実施					
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合,基準や金額等 「無し」の場合,その理由			
始期・終期(年度)	昭和 61	～	令和 4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期	

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	土木費		河川費		河川改修費		R2 予算措置時期		当初	繰越		
				目	項	目	項	目	項	R2年度	R3年度				
現計予算額(A)(単位:千円)				R元年度		20,844		R2年度		17,038			32,922		
決算額(B)(単位:千円)				R元年度		9,897		R2年度		11,017					
内訳(単位:千円) ※R元→R2 決算内訳, R3→予算内訳				国支出金		0		0		0			0		
				県支出金		0		0		0		0			0
				市債		0		0		0		0			0
				その他		0		0		0		0			0
主な経費(単位:千円) ※R2→決算,R3→予算				9,897		11,017		32,922							
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等						予算額のうち3,792千円は前年度繰り越し分		予算額のうち5,597千円は前年度繰り越し分							
予算執行残額(単位:千円)		(A)-(B)		10,947		6,021									

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため,実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R2年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 傍示川の2箇所の測量設計業務委託 光正寺川(平井町)の管理道舗装工事 洗地川の松山市管理道舗装工事 久保田川の護岸嵩上げ工事 												
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	・管理道舗装により,越水時の堤上面の浸食を防止できた。									
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	越水時の堤上面の浸食から,堤体を保護する効果を持つため										
事業の公共性	必要性	1	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない							
R2年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	<ul style="list-style-type: none"> 三反地川の越水対策としての河口部港湾区域の防潮水門の管理に関する愛媛県との協議 県道辰巳伊予和気停車場線改築工事に伴う太山寺川の未改修区間の工事実施 												
R3年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> 傍示川の2箇所の堰改修工事完成を目指す。 太山寺川の改修工事に伴う測量設計業務委託の完成を目指す。 			R3年度の主な取り組み内容(予定含む)	<ul style="list-style-type: none"> 傍示川の2箇所の堰改修の土木工事 太山寺川の改修工事に伴う測量設計業務委託 			特に環境変化,障害,課題等解決のため,R3年度で取り組む改善策	<ul style="list-style-type: none"> 三反地川最下流の防潮水門の管理に関する愛媛県との協議の継続による方向性の決定 太山寺川の未改修区間の隣接地権者への事業説明による実施の方向性の決定 				

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	光正寺川管理道 整備延長	㎡	目標値	1,037	1,037	1,037	-	-	目標値	1,037	
			実績値	499	669	1,037			達成年度	R2年度	
		%	達成度	48	65	100					
	指標の種類	3:累計での増加を目指す指標				最終目標値の 設定の考え方	光正寺川の河川管理道のうち、未舗装部分を舗装することにより、 整備が進むため。				
	本指標の設定理由	光正寺川の河川管理道の整備延長を表す指標であるため。									
	太山寺川改修工事 整備延長	m	目標値	-	-	-	36	36	目標値	36	
			実績値	-	-	-			達成年度	R5年度	
		%	達成度	-	-	-					
	指標の種類	1:単年度での増加を目指す指標				最終目標値の 設定の考え方	単年度ごとに設定するため、最終目標値の設定はできない。				
	本指標の設定理由	太山寺川の河川改修の整備延長を表す指標であるため。									
成果指標 (3つまで設定可)			目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
		%	達成度								
	指標の種類					最終目標値の 設定の考え方					
	本指標の設定理由										
			目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
		%	達成度								
	指標の種類					最終目標値の 設定の考え方					
	本指標の設定理由										
		目標値						目標値			
		実績値						達成年度			
	%	達成度									
指標の種類					最終目標値の 設定の考え方						
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対 する評価(達成又は未 達成要因の分析)	活動指標	予定通り整備が進んだ。									
	成果指標										
上記の指標以外に、指標では表すことができな い定性的な成果がある場合、その内容											

令和3年度 松山市 事務事業シート <シートB>

評価実施年度	令和3年度	評価対象年度	令和2年度
--------	-------	--------	-------

令和3年度	部局等名	都市整備部	課等名	道路河川整備課	担当グループ名	河川・がけ担当	連絡先	948-6838				
	部等長名	白石 浩人	課等長名	大政 貴史	リーダー名	副主幹	寺岡 和紀	担当者名	主任	檜垣 敬子	主任	永井 勝也
令和2年度	部局等名	下水道部	課等名	河川水路課	担当グループ名	河川・水路・がけ担当	連絡先	948-6521				
	部等長名	白石 邦彦	課等長名	白方 秀明	リーダー名	主幹	山内 潤一	担当者名	副主幹	河野 雅憲	主任	門田 慶史

1. 事業概要【Plan】 ※令和2年度の内容

事務事業名(施策コード)	21133	がけ崩れ防災対策事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	1:直営
基本目標	生活に安らぎのあるまち【安全・安心】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	災害等に強いまちをつくる			重点プロジェクト	-	
施策	防災対策等の推進			主な取り組み	-	
主な取り組み	浸水対策・がけ崩れ対策の推進		市長公約	431	元気な産業を応援し、成長する松山をつくります	
取り組みの柱	がけ崩れ対策の推進				西日本豪雨からの一刻も早い復旧をはじめ、担い手の確保や地域・大学と連携した有害鳥獣対策など、松山の農業を守ります。また、ブランド産品の販路拡大、6次産業化の促進など、儲かる農林水産業を推進します。	
総合戦略	基本目標	-				
	政策	-				
	施策	-				
総合計画の実施計画掲載有無(R2)	1:有り	重点的取組事業該当有無(R2)	2:無し			
根拠法令,条例,個別計画等	都市計画法					

事業の目的(どのような状態にするか)	がけ崩れによる人家への被害を未然に防止し、地域住民の安全を確保する。					
背景(どのような経緯で開始したか)	異常天然現象時に国庫補助の県営事業(急傾斜地崩壊対策事業)として不採択の箇所で崩落により重大な被害を受ける恐れがあるため。					
対象・事業内容(誰に対して,何をやるのか)	国庫補助の県営事業(急傾斜地崩壊対策事業)として不採択で、高さ5m以上、傾斜角度30度以上、対象家屋1戸以上の自然がけについて、がけ崩れにより重大な被害を受ける恐れのある人家に居住している住民からの申請を受け、県費補助の範囲で防災対策を順次実施している。					
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り	「有り」の場合,基準や金額等「無し」の場合,その理由	事業費の5%		
始期・終期(年度)	~ 令和 4		終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期		

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	土木費		河川費		目	砂防費	R2 予算措置時期		
				項	目	当初	繰越			12月補正		
				R元年度		R2年度		R3年度				
現計予算額(A) (単位:千円)				397,024		387,741		220,010				
決算額(B) (単位:千円)				185,182		245,523						
内訳 (単位:千円) ※R元→R2 決算内訳, R3→予算内訳	国支出金			0		0		0				
	県支出金			110,812		143,419		111,442				
	市債			46,900		72,700		64,900				
	その他			13,489		9,148		4,600				
一般財源				13,981		20,256		39,068				
主な経費(単位:千円) ※R2→決算,R3→予算						委託料:7,688千円 工事請負費:187,206千円		委託料:11,385千円 工事請負費:206,701千円				
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等						予算額のうち176,665千円は前年度繰り越し分 12月補正で122,800千円追加		予算額のうち122,486千円は前年度繰り越し分				
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		211,842		142,218				

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R2年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	大街道三丁目がけ崩れ防災対策工事外25箇所(緊急4箇所(事故繰越し)、繰越8箇所・当初6箇所・補正8箇所)					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	R元年度は入札不調が6件あったが、令和2年度は1件もなかったため、概ね予定通り実施できた。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	本事業の実施により、地域住民の安全確保に寄与している。			
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	2	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R2年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	特になし					
R3年度の目標	引き続きがけ崩れによる被害の防止に努める。	R3年度の主な取り組み内容(予定含む)	がけ崩れ防災工事22箇所(繰越11箇所・当初6箇所・補正5箇所)	特に環境変化,障害,課題等解決のため,R3年度で取り組む改善策	特になし	

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	がけの整備箇所数	箇所	目標値	15	10	14	11	5	目標値	-	
			実績値	14	8	14			達成年度	-	
			% 達成度	93	80	100					
	指標の種類	1:単年度での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方	単年度ごとに設定するため、最終目標値の設定はできない。				
	本指標の設定理由	がけの整備状況を示す指標であるため。									
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
				% 達成度							
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
% 達成度											
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)			目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
			% 達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
				% 達成度							
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
	上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	計画(年間約10件程度施工)に基づき、予定通りに整備が進んでいる。								
		成果指標									
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											